

竹下合格システムの概要

POINT 1

専用スタジオで収録する立体的な講義で理解を促進!



教壇とeボードを交互に駆使しながら、メリハリのある立体的な講義映像をお届けします。学習する内容の重要事項とポイントを視聴覚両方に働きかけることで、理解を促進することができます。

POINT 2

スタジオ収録の講義は1講義約70分のコンパクトな設定!



1回の講義は約70分前後*で構成されていますので、自分のスケジュールに合わせて、学習計画を立てることができます。忙しい社会人の方や学生の方にも、学習しやすい講義時間となっています。

※テーマにより講義時間は異なります。
※教室収録の講義は時間数が異なります(P7参照)。

POINT 3

重要ポイントはイラスト解説で無理なく理解できる!



eボードにイラストや図を多彩に用いて解説します。権利関係などをイラストで解説することにより、スムーズな理解と知識の定着度を高めることができます。

POINT 4

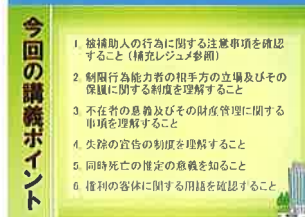
重要条文を確実に押さえられる!



押さえておかねばならない重要条文に関する場面では、条文番号がテロップで画面下に表示されます。膨大な数の条文の中でどの条文が重要なのかを目と耳の両方で確認することができます。

POINT 5

毎回の学習ポイントと講義範囲を的確に把握できる!



毎回の講義の最初に講義の内容と使用テキスト、講義のポイントが表示され、講義の最後に「今回のまとめ」を説明します。現在どの箇所を学習しているのかを再度確認できるとともに、各回講義のポイントを確認しながら学習することができます。

POINT 6

「フォローアップ講座」、
「竹下合格講座」で知識の定着と補充ができる! ライブで実施!



eボードでの講義を一定範囲学習した後に学習事項のまとめや関連する過去問を解く「フォローアップ講座」を、また2014年9月から情報集約ツール「新版直前チェック」を使用して知識の整理を行う「竹下合格講座」をライブで実施します。eボードで学習した内容を反復学習で徹底的に定着できます。

※eボードによる講義は「基礎・実力養成講座」、「ブリッジ講座」となります。「司法書士試験のための法学入門」、「フォローアップ講座」、「竹下合格講座」は渋谷校での教室(ライブ)講義、またはその収録講義となります。

竹下合格システム 学習の進め方

基礎・実力養成講座およびブリッジ講座について

基礎・実力養成講座およびブリッジ講座は、事前にスタジオで収録した講義を視聴する方法によって、各自で受講していただきます。

①講義を受講する前の準備

各回の講義におけるテキストの該当箇所および講義のポイントとまとめたものを事前に配付しますので、講義を視聴する前にテキストの該当箇所を読んでおくください。理解できなくても、おおざっぱに頭に入れる程度で結構です。また、2回目以降の講義では、毎回次の予告をしますので、それを聴いたうえで、事前の準備をしてください。

②講義を受講する際の注意点

講義を受講していて、理解しにくいところが出てきたら、必ず講義視聴を止めて、テキストの該当部分をよく読み、自分の頭でよく考えてみてください。また、条文が出てきたら、必ず六法の条文を読んで確認するようにしてください。

③講義受講後

毎回の講義の最後に、「今回のまとめ」として、その回の講義の内容を整理して、どのような事項に注意して復習をすべきかを説明していますので、これを参考にして各回の復習をしてください。
復習では、その回のテキストの該当部分を改めて読み直し、講義の中で指摘された重要事項を繰り返し確認して、自分のものとしてください。その際、直前チェックや過去問を利用するとよいでしょう。受験勉強のほとんどは、復習の時間だと考えてください。

竹下合格講座・ フォローアップ講座について

本講座は、教室で講義をしますので、実際に教室のライブで講義を受講していただくか、ライブ講義を収録したWeb上またはDVD等で視聴する方法で受講していただきます。

それまでに学習した事項の知識整理を主な目的としていますので、事前の準備は原則として不要です。集中して講義を受け、その後でしっかり復習してください。

ネットで体験!

eボードによる「竹下合格システム」の体験講義をネットで視聴できます!



TAC動画チャンネル

TAC動画チャンネル

検索

平成24年度Wセミナー
司法書士試験合格祝賀会で出会った!
平成24年度
司法書士試験 筆記試験総合1位合格者!

森田 悟志さんの場合

【合格までの学習期間】 約1年2ヵ月

【受験回数】 1回

【受講履歴】 2012年目標 1年総合コース 竹下コンプリート
(現:1年総合本科生 竹下合格システム)、直前予想模試

科目	得点	順位
民法	266.0	0
商法	265.5	0
行政法	265.0	1
労働法	264.5	0
実務	264.0	0

科目	得点	順位
民法	103	7
商法	95	35
行政法	84.0	21
労働法	76.0	42

科目	得点	順位
民法	266.0	0
商法	265.5	0
行政法	265.0	1
労働法	264.5	0
実務	264.0	0

森田 悟志さんの平成24年度司法書士試験成績通知書

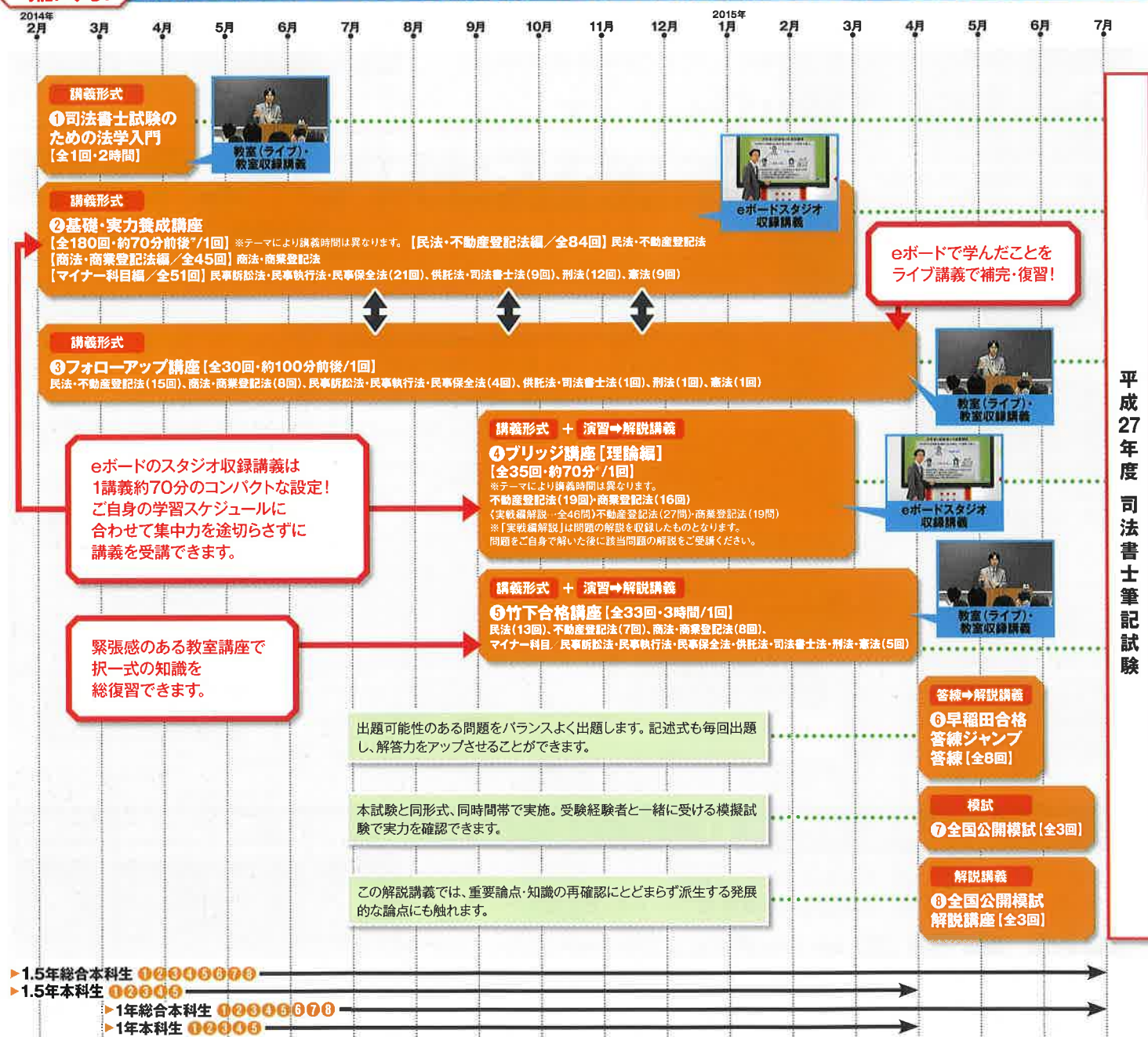
筆記試験総合1位!
午後の筆記述式も3位!

画期的な学習システムによる効率的カリキュラムと

本合格システムの最大の長は、「基礎・実力養成講座」で基礎知識を習得し、さらにその後「フォローアップ講座」で知識の整理と再確認を行えるところにあります。この中で最もボリュームのある「基礎・実力養成講座」をeボードによるスタジオ収録の講義で効率良く学習できることが、その後の反復学習を可能にしています。

短期合格を
可能にする!

竹下合格システム 2015年合格目標「1.5年・1年総合本科生、1.5年・1年本科生」カリキュラム



平成27年度司法書士筆記試験

※上期カリキュラム図は1.5年(総合)本科生2月学習スタートの実施イメージです。

通常受講料一覧

1.5年・1年(総合)本科生の教材費は受講料にすべて含まれています!(六法・過去問題集等は除く)
※「バック」・「単科」・「再受講割引(テキスト無)」は、受講料にテキスト代は含まれておりません。

コース名	回数	～2014年3月31日・5%税込				2014年4月1日～8%税込			
		通学講座		通信講座		通学講座		通信講座	
		教室講座	個別DVD講座	DVD通信講座	Web通信講座	教室講座	個別DVD講座	DVD通信講座	Web通信講座
1.5・1年総合本科生 (竹下合格システム)	全293回	¥488,000	¥488,000	¥498,000	¥458,000	¥502,000	¥502,000	¥512,000	¥471,000
1.5・1年本科生 (竹下合格システム)	全279回	¥458,000	¥458,000	¥468,000	¥428,000	¥471,000	¥471,000	¥481,000	¥440,000

※0から始まる会員番号をお持ちでない方は、受講料のほかに別途入会金¥10,000(消費税込)が必要です。会員番号につきましては、TAC各校またはカスタマーセンター(0120-509-117)までお問い合わせください。
※平成26年3月31日までの受講料は、TAC受付窓口および大学生協等代理店申込各受付の手続き日、郵送申込は消印日、e受付(インターネット)申込は決済完了日が同日の場合有効となります。
※コースNo.、クラスNo.の詳細はP11をご覧ください。

分割払いOK! TAC教育ローン

月々のお支払いに便利な「TAC教育ローン」をご利用いただけます。

1度に全額支払いは
負担が大きい

でも、

分割の毎月支払いなら
受講できる!

月謝感覚で
受講できる!

ネットでお申込みできます。



で申込みます

※お申込み可能コースは
e受付サイトをご覧ください。
<http://ec.tac-school.co.jp/>

試験ガイド

司法書士試験は受験資格がなく、誰でも受験できる試験です。
筆記試験と口述試験からなり、
筆記試験合格者が口述試験を受験することができます。

筆記試験

受験資格	年齢、性別、学歴等に関係なく誰でも受験できます。							
願書配布	例年4月上旬～5月中旬 ◎願書入手は各都道府県の法務局および地方方法務局の総務課にて交付。							
願書受付	例年5月上旬～中旬 ◎願書提出は受験する試験場の所在地を管轄する法務局または地方方法務局の総務課に提出もしくは郵送。							
試験日	例年7月第1日曜日							
受験料	6,600円(収入印紙で納付)							
試験科目	【午前の部】科目：憲法、民法、刑法、商法(会社法を含む) 出題形式：マークシート方式による多肢択一式 出題数：35問							
	【午後の部】科目：民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、司法書士法、供託法、不動産登記法、商業登記法 出題形式：マークシート方式による多肢択一式および記述式(書式) 出題数：多肢択一式／35問、記述式(書式)／2問※記述式は不動産登記法1問、商業登記法1問							
▶筆記試験科目・試験方法・出題数(下記は平成25年度の出題数です。)								
		多肢択一式		多肢択一式	記述式	多肢択一式	記述式	
午前の部 9:30～11:30 (2時間)	憲法	3問	午後の部 13:00～16:00 (3時間)	民事訴訟法	5問	供託法	3問	—
	民法	20問		民事保全法	1問	不動産登記法	16問	1問
	刑法	3問		民事執行法	1問	商業登記法	8問	1問
	商法(会社法を含む)	9問		司法書士法	1問	—		
▶筆記試験の配点(下記は平成25年度の配点です。)								
		出題数	配点					
午前の部	多肢択一式	35問	105点満点					
	記述式	2問	70点満点					
筆記試験合格発表	例年9月下旬～10月上旬 ◎法務局または地方方法務局、法務省ホームページへの掲載および本人への通知							

口述試験

受験資格	筆記試験合格者
試験日	例年10月中旬
試験科目	不動産登記法、商業登記法、司法書士法その他、司法書士業務を行うのに必要な知識について問われます。
試験形式	口述式／2人の面接官が1人の受験生に口頭で回答を求めます。
試験時間	1人約15分
最終合格発表	例年10月下旬～11月上旬

試験に関する問い合わせ先 各都道府県の法務局および地方方法務局の総務課 [法務省ホームページ▶<http://www.moj.go.jp/>]

年度別 最終 合格者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
出願者数	32,558名	33,166名	31,228名	29,379名	27,400名
最終合格者数	921名	948名	879名	838名	796名
合格率	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.9%

※左記合格率は出願者数を母数として算出した割合(%)となります。実受験者数を母数として算出した場合、平成25年度の合格率は3.5%となります。(平成25年度実受験者数22,494名)
※平成25年度の本試験において、午前・午後の択一式それぞれの基準を超え、午後の記述式の採点をされた受験者数は2,177名でした。

基準点に注意! 筆記試験には基準点が設けられています。

「午前の部の択一式」、「午後の部の択一式」、「午後の部の記述式」にはそれぞれ基準点が設けられており、各成績のいずれかがそれぞれ一定の基準点に達しない場合には、それだけで不合格とされ、さらに全体の合計得点が合格点を上回ってはじめて合格となります。

各年度の基準点	午前の部／択一式	午後の部／択一式	午後の部／記述式	基準点合計	合格点
平成21年度	87/105点	75/105点	41.0/70点	203.0/280点	221.0/280点
平成22年度	81/105点	75/105点	37.5/70点	193.5/280点	212.5/280点
平成23年度	78/105点	72/105点	39.5/70点	189.5/280点	207.5/280点
平成24年度	84/105点	78/105点	38.0/70点	200.0/280点	215.0/280点
平成25年度	84/105点	81/105点	39.0/70点	204.0/280点	221.5/280点

基準点/満点